

# 令和4年度 札幌市中小企業振興審議会

## 会 議 録

日 時：2022年8月24日（水）午後1時30分開会  
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 1～3号会議室

## 1. 開 会

○事務局（守屋経済企画課長） 本日は、お忙しい中をご出席いただき、誠にありがとうございます。  
ございます。

定刻となりましたので、ただいまから札幌市中小企業振興審議会を開催させていただきます。

私は、経済観光局経済企画課長の守屋でございます。

議事に入るまでは、私のほうで進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたしますします。

本日は、20名の委員のうち13名が出席されております。

既に欠席のご連絡をいただいている方は、連合北海道札幌地区連合会女性委員会委員長の金子委員、Local Business Lab代表の小西委員、株式会社Will-E代表取締役の根本委員、北海道中小企業団体中央会専務理事の松浦委員、札幌商工会議所常務理事の水落委員、北の旅レシピ代表の村澤委員の6名です。

吉木委員については、間もなく到着すると思いますが、定刻となりましたので、進めさせていただきます。

また、今年度のそれぞれの所属の人事異動で2名の委員の入れ替わりがありましたので、ご紹介をさせていただきます。

簡単で構いませんので、ご挨拶をお願いいたします。

まず、北海道経済産業局から辻委員の後任となります産業部長の菅原委員でございます。  
○菅原委員 北海道経済産業局の菅原でございます。4月から就任しております。どうぞよろしくお願いいたしますします。

○事務局（守屋経済企画課長） 続きまして、北海道経済部から佐藤委員の後任となります地域経済局長の上原委員でございます。

○上原委員 道庁の上原でございます。よろしくお願いいたしますします。

○事務局（守屋経済企画課長） ありがとうございます。

続きまして、昨年度はオンライン会議ということもあり、また、年度もまたぎまして札幌市の人事異動がありましたので、私から事務局を紹介させていただきます。

まず最初に、経済観光局長の田中です。

観光・MICE担当局長の青山です。

産業振興部長の坂井です。

経営支援・雇用労働担当部長の久道です。

経済戦略推進部長の早瀬です。

観光・MICE推進部長の石井です。

農政部長の高田です。

地域産業振興課長の小室です。

商業・経営支援課長の高橋です。

雇用労働課長の佐々木です。

展示場整備担当課長の杉本です。

観光・M I C E推進課長の新居です。

農政課長の石橋です。

## 2. 挨拶

○事務局（守屋経済企画課長） それでは、開催に当たり、経済観光局長の田中からご挨拶をさせていただきます。

○田中経済観光局長 改めまして、経済観光局長田中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、石嶋会長をはじめ、委員の皆様におかれましては、お忙しい中を当審議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

改めて申し上げるまでもございませんけれども、札幌市はほぼ全ての企業が中小企業ということで、私どもの施策は基本的には中小企業の振興策ですけれども、まずは中小企業振興条例というものを制定して、これに基づきまして、この審議会や産業振興ビジョンなどを制定して産業振興に取り組んでおります。

平成23年に産業振興ビジョンというものを策定しまして、その後、毎年、この審議会に進捗状況を報告してまいりました。今回は、令和3年度の実績と令和4年度に向けての進捗状況を報告させていただいた後に、新たな産業振興ビジョンを策定することになっておりますので、いろいろな調査結果、概要などをご説明申し上げる予定でございます。

私どもの施策に、なるべく事業者の皆様のお声を反映するよう努力しているところではございますが、このビジョンが私ども役所の独りよがりのもとならないように、ご列席の皆様の忌憚のないご意見をいただきまして、意義あるものにしていきたいと思っておりますので、ぜひご協力のほどをよろしくお願いいたします。

環境的には、コロナがもう足かけ3年に入っております、原油高、円安、ひいてはウクライナ侵攻ということで、先の見えない難しい時代ではございますけれども、そういった中でも、中小企業の皆様にぜひご支援申し上げられるような様々な施策を検討してまいりたいと思っておりますので、本日もご説明申し上げることにつきまして、ぜひご忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、挨拶させていただきます。

今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（守屋経済企画課長） それでは、これより後の議事運営につきましては、石嶋会長にお願いいたします。

## 3. 議事

○石嶋会長 会長の石嶋でございます。

皆さん、お疲れさまです。

前回はオンラインでの会議で、なかなかうまく議事も進めることができず、失礼したかと思ひます。今日は、数名の方が欠席しておられますが、事前にご意見等は取られているかと思ひます。忌憚のないご意見をいただければと思ひます。

それでは、早速、議事に入っていきたいと思ひます。

まずは、議事（1）札幌市産業振興ビジョン改定版の進捗状況についてになります。

まず、事務局から説明を受けた後に、それぞれの委員からご意見をいただきたいと思ひますので、ご協力のほどをお願いしたいと思ひます。

それでは、よろしくお願ひします。

○事務局（守屋経済企画課長） 本日、資料は4点配付させていただいております。

議題（1）では、資料1及び資料2により、現行の産業振興ビジョンの改定に基づく事業の進行状況について説明させていただきます。

それでは、議題（1）札幌市産業振興ビジョン改定版に基づく事業の進捗状況について説明させていただきます。

まず、資料1、A4判横の産業振興ビジョンの各種取組の進捗状況についてでございます。

これについては、目次に記載のとおり、現行の産業振興部の体系ごとに、令和3年度までに行った取組の実績と、令和4年度の取組予定を整理した資料となっております。

1ページ目をご覧ください。

基本施策とそれに対する取組や成果指標とその実績などを記載しております。

時間も限られておりますので、各分野1事業程度を抜粋しながら説明させていただきます。抜粋する事業につきましては、表の一番左側に星印をつけておりますので、ご参照ください。

まず、重点分野の一つ目の観光分野については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来場・来客数に関する指標の達成が困難になっているものもございしますが、2ページ目にありますスノーリゾート推進計画の策定により、スノーリゾートとしてのブランド化を図るなど、観光コンテンツの充実化に向けた取組を実施しております。

続きまして、5ページ目をご覧ください。

これは、重点分野の二つ目の食分野についてでございます。

食分野については、魅力ある商品の開発と開発後の販路拡大までの幅広い支援に取り組んできたところであり、食品販路拡大支援事業では、コロナ禍においてもオンライン商談会を実施するなどにより、成約・売上げ合計額を順調に伸ばしてまいりました。

続きまして、9ページ目をご覧ください。

重点分野の三つ目、環境（エネルギー）分野については、新製品・新技術開発支援事業でエネルギー関連事業の開発支援を行い、事業化の製品の売上高は順調に推移しております。

続きまして、11ページにお進みください。

重点分野の四つ目は、健康医療・福祉分野でございます。

健康医療バイオ産業支援事業などによって、関連企業の研究開発とビジネス機会拡大を支援し、この後に説明する資料2にも記載しておりますが、市内のバイオ企業の売上が大きく拡大しております。

続きまして、13ページをご覧ください。

重点分野の五つ目、IT・クリエイティブ分野でございます。

IT利活用ビジネス拡大事業により、市内IT企業の高い技術力をアピールし、他産業の連携を促進することで、市内IT企業による顧客開拓・販路拡大を図り、市内IT企業の売上が増加してまいりました。

続きまして、17ページをご覧ください。

17ページからは横断的戦略になります。

横断的戦略の1、中小・小規模企業の支援として、中小企業経営支援事業により、中小企業等の経営基盤の強化を図るため、経営相談や経営セミナーなどを開催し、社会経済情勢の変化により、経営等に影響を受けている中小企業者の支援を行ってまいりました。

続きまして、23ページ目にお進みください。

23ページは、横断的戦略の2、新たな企業の創出でございます。

企業立地促進事業にて企業立地補助を実施するとともに、誘致PR活動を行いまして、立地誘致企業数は順調に推移しております。

続きまして、28ページです。

横断戦略3の人材への支援についてです。

具体的な事業の説明は36ページ目をご覧ください。

36ページでご説明するのは、札幌UIターン就職支援事業でございます。この事業により、東京都内に設置したUIターン希望者向けの相談窓口で、市内や道内企業とのマッチングに向けた支援等を実施し、人材誘致を進めてきたところでございます。

資料1については以上でございますが、続きまして、その次にございます資料2の産業振興ビジョンの数値目標及びまちづくり戦略ビジョンの指標の進捗状況についてご説明いたします。

まず、産業振興ビジョンの数値目標としては、市内の従業員数と市内企業の売上高を掲げておりますが、市内の従業者数については、令和4年6月に公表された令和3年経済センサスの速報値で更新されており、市内売上高については速報値で公開されていないことから年度が替わりますが、平成28年度の数値が最終値となっております。作成年のものから更新はございません。

お手元の資料のとおりでございますが、従業員数につきましては約86万3,000人となっております。平成26年度当初と比べますと5,000人ほど増加しておりますが、残念ながら目標である90万人は達成が難しいことが見込まれております。

売上高については、約2兆1,600億円となっており、平成26年度に比べますと5兆3,000億円余り増加しており、これについては目標を達成する見込みです。

また、産業振興ビジョンの数値目標を補完する指標としまして、札幌市の総合計画であるまちづくり戦略ビジョンの指標の項目の中から重点分野・横断的戦略に関連している項目で、産業ビジョンの中にも掲載している項目について記載しております。

なお、前回の審議会でもご説明差し上げたとおり、令和4年度目標値の達成が難しい指標もございますが、現在策定に着手している第2次まちづくり戦略ビジョン及び第2次産業振興ビジョンにおいては、社会経済情勢の変化の影響等を十分に考慮して、目標の設定についても検討してまいりたいと考えております。

非常に駆け足でございますが、議題（1）の説明については以上でございます。

○石嶋会長 それでは、ただいま事務局から説明がありました内容について、ご意見のある方は挙手をしてご発言いただきたいと思っております。

実は、議題（2）の骨子案に十分時間を割いていきたいと思っておりますので、ここは全員に当てるということにはせずに、挙手でお願いしたいと思っております。

まず、欠席された委員から何か意見、質問がございましたかどうか、確認はできますか。

○事務局（守屋経済企画課長） 欠席された委員にも事前に資料を配付しておりますが、特にご意見等はございませんでした。

○石嶋会長 それでは、どなたからでも構いませんので、挙手をお願いいたします。

○土井委員 それぞれすばらしい案だと思います。

私はバイオ関連ですから、バイオ絡みの話をしますと、我が社は、札幌の研究者は、男性1人で、あとは全て女性で、責任役員も女性です。北大の獣医、薬学、医学、理学部もそうですし、札幌大も含めて、女性の研究者が博士号を取って卒業しているのですが、札幌には製薬会社がないということで、医師や大学教員にならなかった方は東京、大阪などに行ってしまいます。

ただ、製薬会社に勤めてから札幌に帰ってきている人数は、男性はほとんどいないのですけれども、女性は結構います。帰札幌後に自分の技能や知識を活かせる職場が少ないからという理由で北大などでアルバイトをしている人たちがおり、その方々に声をかけて当社にきてもらい、その人たちがすごく成果を上げています。

バイオ研究を進めるうえで、札幌独自の女性研究者の層が厚いところはすごく優位性があるのではないかと考えて、その辺の掘り起こしをいろいろやってみると、このバイオの資金が結構生きてくるのではないかと考えています。

特に、バイオ研究の場合は時間を限ってやることのできるもので、我が社で1時間有給休暇制度をつくったら、子育て世代の女性の雇用がすごく増えたのです。だから、そういうふうな事例も活用していくと、この雇用とバイオは結構一緒にできるのではないかと思います。その辺は、札幌の強みを生かしたものをどんどん入れていただければありがたいと思っております。○石嶋会長 バイオだけではなく、女性の活躍推進というところで横でつ

ながっていかねばいけないという大変さがあるかと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

○鈴木委員 北海道銀行の鈴木でございます。

質問と意見をさせていただきたいと思えます。

ご説明いただきました横断的戦略の中の23ページの企業立地促進事業のところ、令和3年度の決算額2億6,600万円に対して、令和4年度は予算が8億円を上回っているということで、この事業に関してはすごく力を入れて取り組んでいかれるのだなというのが予算から見て分かりました。

この企業立地促進に関しては、本当に重要なテーマだなというふうに捉えておりまして、それに連動する形で、今度は36ページのところで、札幌のUIターンの就職支援事業とあります。これは、年度ごとに実績値で、内定者の数をお示しになっていただいていると思うのですが、このUIターンの人数をもっともっと増やしていくという施策になると思うのですが、この事業を進めていて、就職される、戻ってこられる、あるいは札幌に就職される人の数的にはどうでしょうか。感覚的にまだまだ行けるという感じなのかと思うのですが、その辺の感触がもし分かれば教えてください。

本当にいい取組だと思いますし、この辺はぜひどんどん積極的に進めていってほしいと思っておりますので、その辺のご説明をいただければと思います。

○事務局（久道経営支援・雇用労働担当部長） UIターンの就職支援ですけれども、今、首都圏の大学を中心に協定を結ばせていただいております。こういったところに営業というか、北海道にはこういった企業がございますということをお伝えに行ったり、大手町にUIターンの就職センターを設けておりまして、学生や社会人の方、札幌で働くことに興味のある方に来ていただきまして、いろいろな相談に乗ったり、こういう企業があるというご紹介をさせていただいているところでございます。

最近、札幌で働きたいというニーズがあります。コロナのせいもあったのかもしれませんが、東京の感染状況が結構ひどかったときに、札幌も感染者数は結構多かったのですが、札幌で働きたいという方も結構いらっしゃいました。また、最近、学生といろいろ話をしている中で、北海道の企業についてよく分からないとか、特に学生だけではなくて、親御さんで北海道の企業というのはいかかなものなのかという印象を持たれている方もいらっしゃいまして、最近、学生のみならず、親御さんに対してセミナー等々で北海道の優良な企業としてこんなところがありますというお話をさせていただいています。

ニーズとしては非常に大きいと思っておりますが、私たちは、どこからこういうところにつなげていったらいいのか非常に苦慮しているところもありますので、できましたら、関連企業の皆様や、首都圏にございます皆様とともにPR等をしていければと思っております。

○石嶋会長 ほかにご意見、ご質問等があればお願いします。

○田中委員 株式会社和光の田中傳右衛門です。

私は、この審議会委員はもう4年目になりますが、最初の頃はまだコロナがなかったからよかったのですけれども、やはりコロナの影響を大きく受けたなと思います。

やはり、札幌の経済は、観光のウェイトが結構高く、食のウェイトが高く、それが大きく影響を受けて、この計画も大分影響を受けたなと思うのです。その中で、急遽、いろいろと臨機応変に変えて中小企業応援していただいたのは非常にありがたいと思いました。特に、補助金やいろいろな融資で大分助けられたなと思います。今、中小企業は、おかげさまで大分回復しております、このコロナでぐっと絞った経営をやったところが、今、経済が上がってきていますので、それで大分立ち上がってきたなという感じがいたします。

議題2の方にこれから重点を置くということですから、議題1については感想を申し上げた次第であります。

○石嶋会長 ほかにご質問や伺いたいところがありましたら挙手をお願いします。

○西山委員 ラーメンでお世話になっております西山でございます。

今、和光の田中委員からも話がございましたけれども、まさに食を中心にしてやっている中小企業の一つでございます。

コロナの影響がありまして、やっと今、コロナ前までの売上げにかなり戻っております。昨年度のうちにコロナ前に売上げが戻りました。ただ、いろいろなものが高騰していることもございまして、価格転嫁が遅れており、タイムラグがございますので、まだ利益面ではコロナ前には戻っておりませんが、売上げ面では戻っている状況です。

その中で、今年になって大きく伸びているのは輸出です。実は、3年前のコロナ前は、手前どもの全体の売上げの約12%が輸出の売上げだったと思いますが、今年は多分20%を超えenと思います。海外が大きく回復しておりますので、やはり食と観光のビジョンの施策に記載があるとおりでございまして、北海道においては食、観光が大きな牽引策になると思いますので、その中でも輸出関係とインバウンドで消費してもらおうということが大きな柱になろうかと思ひます。

その中で、北海道の会社、札幌の会社でも海外に出向くと、西山さん、どうなの、どうやってやるのと、よく相談があります。皆さんから声が聞こえてくるのは、地元でセミナーなりマッチングがいろいろとあるのだけれども、いい話ばかりしか聞こえてこないのです。でも、実際は、悪い話、失敗した話がたくさんあるでしょう。そんな話はなかなか聞こえてこないのですと。

ですから、また次回でもよろしいですけれども、海外で、本当に現場でもってご苦労された方の話ですね。失敗談もあるだろうし、成功談もあると思いますので、そんなものを聞く機会がもっと多くなれば、不安なく、海外というのはこんな状況なのかということが皆さん分かるかと思ひますので、ぜひその辺もこれから拡充していただければ思っております。

よろしくお願ひいたします。

○石嶋会長 失敗談は非常に重要ですが、それを話してくれる人がそうそういないという



ところは難しいと思いますので、西山委員、もしそういう方いらっしゃったら紹介していただきたいと思います。

○西山委員 よかったら、私どもの失敗例も話します。

○石嶋会長 実は、そっちのほうが勉強になりますよね。

北海学園でも一度、海外にちょっとしたマーケットをつくって何とかできないかということで、そのお手伝いに学生を通訳で連れて行ったのです。ところが、これは人が中心なもので、中心的な人がご病気されて、全部立ち消えてしまいました。やはり、システムとしてうまくつくって行って、失敗をシステム化して、それを乗り越えるようなメカニズムをつくっていくというところをみんなで考えていかなければいけないと思っております。逆に言うと、今はチャンスですね。ですから、今、西山委員がおっしゃったことをぜひみんなで実現できればなと思います。

ほかにご質問、ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○小泉委員 ペットショップをしている有限会社小泉と申します。

65年ほどやっています、昔は商売をやっていると黙っていてもお客さんが来た時代がございました。今、そのしっぺ返しが来ているかなと思って、ご迷惑をかけています。

北24条に住んでおりますけれども、地下鉄ができて、一時は非常に盛んになりましたが、今、コロナが3年目ということで、商店街もかなり疲弊しております。商店街は、中小企業というか、零細企業の固まりですので、なかなか思うような形で活動はできませんけれども、札幌市の援助のおかげで、この二、三年、コロナにもかかわらず、少しずつ商店街も復活の兆しが見えております。それもこれも経済局のいろいろな援助のおかげと思って感謝しております。

商店街の役割ということで、地域に根差したことということで、ボランティア活動や、お花を飾ってきれいにしたりという形でやっておりますけれども、特に最近、商店街にも女性部というものがございまして、女性の力が非常に強いのです。商店街という小さな組織で、男は日中は仕事で外に出られないので、女性が一生懸命その穴を埋めてくれて、いろいろな活動をしていただいております。縄文の関係の施設など、いろいろな形で商店街の女性部の意義が非常に多くなっております。

女性のワークショップもやっていただいておりますけれども、これからのさらなる援助、助言もしていただいておりますし、北海道胆振東部地震のときに、大型店はほとんどが店を閉めて入り口でしか販売してもらえなかったところで、商店街の会員の皆さんは、来るお客さんにも非常に開放的におにぎりをつくったり、非常に活躍していただきました。特に飲食店の方は、電気が止まったものですから、冷蔵庫にある品物を早く処理したほうが良いというような考えもあるのでしょうかけれども、外に出まして歩道で炭を使って炊き出しをしたりという形で困った方を援助したという事例もございます。商店街には災害時の防災グッズはなかなかないので、これはそういう形のものも考えていただいて、我々も一緒になって防災について考えたいと思います。今、町内会が一生懸命やっております。

まして、我々もそれに加わっております。団体の組織的なものについては、町内会のほうが上ですけれども、商店街もそれに倣って、これからの防災について考えていければなど思っています。

そういう意味での援助といえますか、助言もいただければありがたいと思っております。

○石嶋会長 ありがとうございます。進捗状況ですから、まだこれからデータが少し変わる可能性もございます。今、コロナ禍も大体終わりかけているかなというところで、国や行政からの支援が少し終わって、いわゆるゾンビ企業が大量倒産するのではないかと言われておりますが、意外に北海道の企業は強くて、それほど大きな変化は出ていないところです。むしろ、ほかの大規模な店舗、あるいは、都市計画を見ていると、どんどんよきによきとビルが建つような状況で、札幌は意外と元気があって、当然、市の振興政策も非常によいものもありますが、もともとの中小企業の皆さんの地力が高いのだと思います。ただ、これにあぐらをかいていると足元をすくわれますので、我々としては、もっとよいところへ、もっと先のところへと進めるような施策を考えていかなければいけないと思っております。

ここまでで、進捗状況についてのご報告の意見を取りまとめていただきたいと思っております。ほかにご意見があるかもしれませんが、それはまた思いついたところでお話しいただければと思います。

それでは、議題（１）についてはここまでとしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○石嶋会長 では、続けて、第２次札幌市産業振興ビジョン骨子案についてでございます。

こちらについても、まずは事務局から説明を受けた後に、それぞれの委員からご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○事務局（守屋経済企画課長） 続きます。議題（２）では、資料３及び資料４により、第２次札幌市産業振興ビジョンの骨子案について説明させていただきます。

議題につきましては、ポイントを絞って説明しますが、２０分程度の説明となりますので、よろしくお願いいたします。

まず、昨年７月３０日の審議会にて、産業振興ビジョン策定方針について委員の皆様よりいただいたご意見と、それに対する回答を資料３にまとめております。

それについては、絞りまして、２点を抜粋して説明させていただきます。

まず、１ページ目でございますナンバー１ですが、本日は欠席となっております松浦委員より、策定スケジュールに関して、現行ビジョンを延長すべきとのご意見をいただきました。これについては、次期ビジョンの公開は来年度末となっておりますが、その期間まで現行ビジョンを踏襲しつつ、社会経済の情勢に応じた取組について、来年度の夏頃に開催を予定しております次回の審議会でご報告させていただきながら、切れ目なく産業ビジョンの産業振興の方向性を示しながら事業を展開していくことで、現行のビジョンの延長は行わず対応してまいりたいと考えております。

これにつきましては、松浦委員にも事前にご説明して、ご了承を得ております。

続きまして、2ページ目の5番目になります。

これについては、入澤委員より、IT産業とクリエイティブ産業は分けて考えるべきだ  
とのご意見をいただいております。

こちらについては、この後、資料4にてご説明しますが、次期ビジョンにおいては、IT  
分野とクリエイティブを今後のさらなる成長が期待される分野として重点分野にそれぞ  
れ位置づけたいと考えております。

また、ただいま抜粋した2点以外のご意見につきましても、次期ビジョン策定に向けて  
検討を行った上で、ご意見を参考にしながら、適宜、反映させていただきたいと思いま  
す。

続きまして、第2次産業振興ビジョンの骨子案についてご説明させていただきます。

これは、お手元の資料4の1ページ目をご覧ください。

まず初めに、参考資料となりますが、ビジョンを策定するに当たり、企業の現状や中期  
的な経済活動を理解した上で施策の方向性や取組を検討することが不可欠なことから、市  
内1万社を対象としたアンケート調査と、企業経営者や学識経験者を対象にしたヒアリン  
グ調査を実施いたしました。

まず、アンケートの結果から説明させていただきます。

こちらの調査は、2021年12月に札幌市内に所在する企業1万社を対象に実施し、  
3,143社から有効回答がございました。なお、現行の産業振興ビジョンの改定時も同  
様の調査をしており、一部の設問においては前回調査との比較分析を行っております。

まず、①経営状況と事業展開の方向性についてです。

最近5年の実績の推移については、ほぼ横ばいと回答した企業が最も多く、これに減収  
減益が続いております。

前回実施した調査と回答結果を比較したところ、増収増益が減少している一方で、減収  
減益が増加する結果となりました。

続きまして、資料の右側に移りまして、事業を行っていく上での課題としては、人手不  
足を挙げる企業が最も多く、前回調査から引き続き人手不足に苦しむ企業が多い状況とな  
っております。

次に、現在取り組んでいる事業分野の市場規模についての将来の展望をどのように考え  
ているかという調査では、市場規模が拡大していくといった企業は2割弱で、資料には載  
せていませんが、業種別に見ると、宿泊業、食品製造業、情報通信業、医療・福祉業にお  
いての割合が多くなりました。

続きまして、次ページをご覧ください。

②人材確保に向けた取組についてです。

最近の人材確保の状況について、確保できていないという回答が4割近くを占めました。  
そのような中、多様な人材の活躍の場を広げたいと考えているかを調査したところ、特に  
考えていないと回答した企業が最も多く、人材不足の解決策として多様な人材の活躍が進

んでいない状況であることを推察しております。

続きまして、③社会問題の解決に向けた取組についてでございます。

デジタル化への取組については、取組に積極的な回答が約5割を占め、多くの企業がデジタル化による業務の効率化を図りたいと考えているところでございます。

続きまして、ページをおめくりください。

SDGsへの対応についての調査でございます。

取組を進めることに積極的な回答は約2割程度にとどまり、SDGsについては、内容を知らない、初めて聞いたという企業が約3割となりました。

ゼロカーボンに取り組む上での課題を調査したところ、どのレベルまで対応が必要か分からない、専門知識やノウハウが不足しているとの回答が多く見られました。

次に、右側へ移りまして、④事業活動を行う上で行政による支援策についての回答が上位となったものは、低利融資制度、人材確保支援であり、前回の調査の上位2位と同じ結果となりました。

以上の内容を3の総括でまとめておりますが、市内企業の抱える課題や行政の要望について、現ビジョン改定時から継続している面が多く見られるほか、多様な人材の活躍や社会課題の取組への後押しとなるような施策も必要となってくるものと認識しております。

続きまして、4ページ目をご覧ください。

こちらは、2021年10月から2022年1月の期間中に、各企業経営者や学識経験者などを訪問し、約50者を対象に実施したヒアリング調査の結果をまとめております。

個別の説明は割愛いたしまして、1ページおめくりください。

右下の青色のところに総括を記載しております。個々の内容については特にご説明いたしません。自社、業界の課題、行政に望む支援策について、幅広く声を伺いました。

以上のアンケートを通じて、企業経営者や学識経験者の皆様からご意見をいただいたことで、当審議会でのご意見などを踏まえ、産業振興ビジョンの骨子案を作成しております。

次ページをおめくりください。

第2次産業振興ビジョンの骨子案でございます。

1-1、策定の趣旨については、昨年度ご説明した内容と同様となりますので、説明は割愛させていただきます。

1-2、位置づけについてでございます。

第2次産業振興ビジョンは2編構成とし、第1編をビジョン編とし、まちづくり政策局が策定中の第2次まちづくり戦略ビジョンのビジョン編・戦略編の内容と連動させながら策定していきます。

そして、下の薄い青色になりますが、第2編の施策編では、2025年公表予定のアクションプランの内容と連動させ、具体的な施策を掲載することで産業振興ビジョン施策の方向性を意識した事業展開を行うことを狙いとしております。

続いて、下の1-3の計画期間についてです。

現行の産業振興ビジョンの最終年度は2022年度までとなっておりますが、第2次まちづくり戦略ビジョンビジョン編の公表時期を考慮し、第2次産業振興ビジョンの計画期間は2023年度から2032年度までの10年間と考えております。

続きまして、1-4、1-5については、昨年度の説明と同様となりますので、説明は割愛させていただきます。

続きまして、2、札幌市の現状、抱える課題についてでございます。

2-1、現ビジョンの実施状況の①数値目標の達成状況については、先ほど資料2で説明したとおりでございますので、これも割愛させていただきます。

②主な取組については、詳細は資料1でまとめて説明しているため、これについても割愛しますが、それぞれ重点分野、横断的戦略分野に基づきまして、それぞれの取組を行ってきたところでございます。

次のページをご覧ください。

続きまして、2-2、札幌市の主な魅力です。

①都市機能の集積、そして、②食の魅力、③観光満足度の高さ、④住みやすさ、⑤都市としてのブランドイメージの五つを挙げております。

続きまして、資料右側に移りまして、2-3の人口動態をご覧ください。

皆様もご存じのとおり、①の札幌市の人口については、札幌市は、高度経済成長期において都市部への人口集中等を経ながら、2020年には人口約197万人と過去最大となっておりますが、札幌市の現在の人口増は社会増加が要因となり、自然動態で見れば、出生数を死亡数が上回る自然減少が起きており、2022年1月には初めて人口減少を迎えました。

2015年の国勢調査の結果を基に推計した将来時推計人口では、札幌市は2060年には155万人と、2015年195万人から約40万人の減少が予想されております。

また、②の札幌市の労働力人口については、高齢者、女性においては増加しているものの、社会動態で見ると、男女ともに若い世代の道外転出が大幅に超過している状況です。

ページをおめくりください。

2-4、札幌市の産業構造等をご覧ください。

①の札幌産業構造等については、昨年度の説明と同じになりますので、割愛させていただきます。

続きまして、右側に移りまして、市内総生産等についてです。

これにつきましても、リーマンショック以降、平成30年度までは、市内総生産は増加基調にあります。一方で、下の表を見ていただきたいのですが、1人当たりの市民所得は、他の政令市より低い水準にあります。

また、その下になりますが、札幌市の域際収支は、最新の平成27年度値で3,969億円の赤字となっており、人口減少、生産年齢人口の減少に伴い、将来にわたって市場の縮小が懸念されることから、域際収支を改善することが求められます。

ページをめくりください。

③市内企業の課題についてです。

市内企業2,000社を対象に年2回実施している企業経営動向調査によると、新型コロナウイルス感染症による消費の停滞等から、2019年度以降は、売上げ不振や収益率の低下が顕在化しております。

加えて直近、2月の調査でも、原油高の高騰に諸経費や仕入れ価格の上昇といった課題が顕著な一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人手不足といった問題は一時的に減少したものの、この頃はまた人手不足が浮き彫りになりつつあります。

資料左下の2-5、取り巻く社会経済情勢の変化についてまとめております。

これも、内容については、昨年ご説明したのから大きく変化しておりませんが、整理としまして、①世界、国内における社会情勢と、②札幌市における社会経済情勢の二つに分けて整理しております。

また、①の(5)について、昨年度は整理していなかったのですが、不安定な世界情勢という項目を追加しております。これは、刻一刻と変化する社会情勢にアジャストし、札幌経済の活性化の機を逃すことのないよう、オール札幌及び北海道で取り組むことが重要であり、人口減少や自然災害等の有事を乗り越え、持続可能な経済の構築を目指すことが必要であると考えております。

次に、10ページをご覧ください。

こちらは、現ビジョンである札幌市産業振興ビジョン改定版と、次期ビジョンである第2次札幌市産業振興ビジョンの全体像を一覧する資料となっております。

次ページより、それぞれの要素について説明いたします。

また、次ページをおめくりください。

こちらでは、第2次札幌市産業振興ビジョンの体系について記載しております。

まず、3-1、産業振興の目的ですが、現ビジョンでは、雇用の場の確保・創出、企業・就業者の収入増加により、魅力あふれるまちづくり実現されることとしており、魅力あふれるまちには人や企業が集まることになるため、好循環につながっていくものと考えております。

産業振興の目的は、社会情勢の影響を受けずに不変であるものと踏まえ、第2次産業振興ビジョンにおいても、従前同様にこの目的として設定したいと考えております。

続きまして、3-2、基本理念でございます。

第2次まちづくり戦略ビジョンにおいて、札幌市の目指すべき都市像の実現に向けて、企業、市民、行政が共通の視点に立ち、第2産業振興ビジョンの推進をする考え方を基本理念と考えております。

基本理念を設定する考え方ですが、現在検討しています第2次まちづくり戦略ビジョンの目指すべき都市像として、「『人』『ゆき』『みどり』の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ」と掲げております。今後、札幌

経済を将来にわたって発展させていくためには、人口減少による市場の縮小や感染症等の有事の発生等、目まぐるしく変化する社会経済情勢においても活発な企業活動が維持される、足腰の強い市内企業の経営基盤の構築が必要です。

加えて、北海道新幹線の札幌延伸や冬季オリパラ等の招致等の転機を最大限に生かして、市内経済の活力を生み出すとともに、イノベーションによる新たな価値を生み出し、次世代をリードする多様な人材や企業を集積させる好循環を生み出していくことが重要です。

そして、脱炭素やSDGsといった社会課題の解決をエンジンとして経済を発展させる好循環を生み出していくことが求められることから、これらを踏まえ、札幌の目指す都市像の実現と、産業振興の目的である雇用の場の確保、創出、企業・就業者の収入増加の達成に向け、企業、市民、行政が一丸となって産業振興に取り組めるようなキャッチーな基本理念を設定することを目指して、事務局で次の三つの案を設定しております。

まず、一つ目として、「SAPPORO NEXT 100 YEARS CHALLENGE～次なる100年につながる持続可能で力強い札幌経済を実現～」としております。二つ目は「持続可能な経済化基盤と新たな活力へと繋ぐNext City Sapporo」、三つ目は「未来を創ろう。Sustainable×Growth Sapporo Economy」となっております。これも、委員の皆さんから何かご意見をいただければと思っております。

続きまして、下の3-3、基本的な視点についてですが、基本理念に基づき、中長期的な産業振興を図っていくために必要な支援として、①道内連携の推進、②産学官連携の活性化、③道内循環の拡大と道外需要の拡大、④SDGsの実現、以上4点を設定いたしました。

次ページをおめくりください。

3-4、施策の展開の方向性についてですが、現行のビジョン同様、特に重点的に取り組む分野としての重点分野、全産業の底上げを図るために重要な共通の指標としての横断的戦略を設定しております。

まず、重点分野ですが、昨年度の審議会でご審議いただきました策定方針のとおり、札幌市を含めた北海道経済を牽引する観光、食の分野と、今後のさらなる成長が期待されるIT、健康福祉・医療、クリエイティブの分野の五つとしております。

それぞれの分野における重点分野に位置づけた理由と、現在検討している基本的施策について、簡単にご説明いたします。

まず、観光分野と食分野について、併せて説明させていただきます。

両分野とも資源が豊富であること、インバウンド等からの外貨の獲得が可能であること、食料品製造業や運輸業等の他産業への経済波及効果の期待ができる分野であることが重点的に取り組む理由として掲げられ、新型コロナウイルス感染症の影響から早期に回復するため、観光コンテンツの充実による魅力づくりや都市ブランドの強化による誘客促進に資する施策を検討しております。

次に、IT分野ですが、国内IT市場は今後も成長していくことが予想され、他産業の生産性向上に寄与することから重点分野として定め、下請業務が主流となっていることやIT人材の獲得競争が激化していることを課題として、市内企業のデータやデジタル技術の活用促進、IT・AI人材を創出することを基本施策として検討しております。

続いて、健康福祉・医療分野でございます。

新型コロナウイルス感染症を契機に、健康志向の高まりや感染症に対応した治療薬の開発など、健康医療バイオ産業へのニーズが高まっており、医療機関や介護事業所が活用する関連機器・技術、健康長寿に関する商品、サービスといった健康福祉・医療に関する産業は今後の成長が期待されることから重点分野として定め、一方で資金調達環境や経営人材不足といった課題を抱えていることから、研究開発の支援に加え、異業種との連携や産業集積を促進する施策等を検討しております。

次に、クリエイティブ分野については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う新しい生活様式の定着により、コンテンツ市場の拡大は堅調となり、市場の成長が見込まれるため、重点分野として定め、食や観光などの様々な産業の高度化に寄与する分野であるにもかかわらず、企業のブランド力向上や商品の高付加価値化等に有効なデザイン活用が進んでいないといった課題があることから、市内企業におけるデザイン経営導入の支援等を基本施策として検討しております。

続きまして、13ページにお進みください。

続いて、横断的戦略でございます。

変化し続ける社会環境に対応可能な足腰の強い経営基盤の構築と生産性向上を目指す「札幌経済を支える中小・小規模企業への支援」。冬季オリパラや北海道新幹線の延伸等による都市の再開発を契機に、魅力ある人材や企業立地の促進を目指す「札幌経済を発展させる新たな企業や価値の創出」。人口減少社会を迎える中、企業活動の継続と成長を実現するため、人材確保・育成、多様な人材の活躍促進、道外・国外からの人材誘致を目指す「札幌経済を担う人材への支援」。社会課題解決の取組が企業のブランディングや新たな事業機会の創出等の成長戦略となる中、DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）の促進とSDGsの実現により、企業の持続的発展を目指す「持続可能な札幌の経済の構築」。

以上の四つを全産業の底上げのために必要となる共通の横断戦略として設定し、施策を展開していきたいと考えております。

最後に、3-5、数値目標についてです。

現ビジョンにおいては、産業振興の目的である雇用の場の確保・創出、企業・就業者の収入増加に直結する指標として、従業者数と売上高を目標として設定しておりました。

しかしながら、人口減少局面を迎える札幌として、経済規模の拡大を目指す以上に、市民一人一人が豊かな生活を確保することを目指すことが重要であるという考えの下、持続的な経済成長を実現するための指標として、人口1人当たりの市内総生産額（名目）を数



値目標として設定したいと考えております。

大変長くなりましたが、事務局から説明は以上でございます。

○石嶋会長 それでは、ただいまから事務局の説明に基づきまして、その内容についてご意見を伺いたいと思います。

意見交換は15時20分頃までを予定しておりますので、1人当たり4分か5分くらいということになるかと思いますが、まずは、どなたかご意見あるいは質問等がある方は挙手をお願いしたいと思います。

○入澤委員 エコモットの入澤でございます。

IT企業をやっておりますので、IT並びにクリエイティブの意見をさせていただきたいと思います。

最後にご説明があった12ページのクリエイティブの課題です。重点分野ですが、クリエイティブとは何なのかというところの僕の認識とこの記載が違うと思っています。コンテンツ産業と言ってしまうばそうですけども、例えば初音ミクみたいなクリエイティブコモンズの的なものや、演劇だったりエンターテインメント的なものを考えていたところがあります。要するに、観光客を増やし、札幌に来てもらったときにそこに楽しいものがあるよという意味でのクリエイティブも一つあると思っていましたので、もう少しそういったエッセンスがあってもいいのかなと思います。

その課題に対して、人材の流出や下請型の受注構造とありますけれども、ここは、ITのところそのままスライドしてそこに行っているような感じがして、クリエイティブに下請構造は考えにくいなというか、直接やるクリエイターを増やしていくということが施策としてはいいのではないかと思います。施策はこういった形でもいいのかもしれないですけども、人材の流出や下請型の受注構造というのがぴんとこなかったところがあります。

ITのところも、もちろん一緒です。ITは、もうこれでいいかと思いました。

次の横断的なところの13ページの一番上のDXの推進、GXの推進とありますけれども、この計画はこれから10年ぐらい使うものですから、こういうバズワードはあまり入れないほうがいいのではないかというのが僕の意見です。多分、グリーントランスフォーメーションなんて誰も言っていないと思うのです。DXも、ここ二、三年は言うかもしれないですけども、デジタル技術の推進とか、言葉としてもっとポピュラーなものがないのではないかと思います。

○事務局（守屋経済企画課長） まず、皆さんと意識をまとめなければいけないのですが、クリエイティブとは何かということですね。特に、札幌は、クリエイティブの場合はコンテンツ産業という言葉を使っていて、それは映像を中心として、放送業や映画業、一部娯楽媒体、そういうものを含めて伸ばしていこうというコンテンツ産業からスタートしまして、途中でクリエイティブに変わったときに、デザインなどが追加されております。今、特に映像プランを札幌市もつくり変えているのですけれども、その中には先ほどのCGや

ゲーム開発も入れております。もちろん、私の説明も不足していたのですけれども、それ以外に、デザイン経営と言いまして、全ての業種について、デザインを全ての経営の中心に据えていって、もっとクリエイティブを生かしていこうと、観光に限らずいろいろなものにクリエイティブ産業を活用していこうと考えております。

それから、入澤委員からありましたクリエイティブの下請型の受注構造というのは、確かにデザイン経営から言うと変ですね。ただ、一部、ゲームやCGはITと非常にかぶる分野がありまして、クリエイティブのイメージは広いものですから、使い方については再整理しますけれども、一部、こういうものがあることは否めないと思っています。もう少し工夫させてください。

それから、DX、GXについてです。GXについては初めて聞いた人がいらっしゃるかもしれませんが、たしか2年ぐらい前から経産省で使っている言葉で、我々としては、国が使っているので使わせていただいています。もちろん、グリーンということは誰も否定しないので、概念としてはいいと思うのですけれども、果たして10年後もトランスフォーメーションという言葉が両方とも使っているのかという入澤委員のご指摘も踏まえまして、これについて、今すぐ使えません、使いますという回答よりも、もう少し検討させていただきます。

○石崎会長 非常に重要な指摘だったと思います。

ほかに質問やご意見はございませんでしょうか。

○上原委員 道庁の上原でございます。お世話になっています。

私は、中小企業支援を担当しています。ビジョンということで、もう少し大きな話ができればいいのかもしいかなのですが、中身を見ていて、こうしたほうがいいのではないかというより、この辺は今後結構重要になるのではないかということをお話しさせていただければと思います。

アンケート調査を見ていて、「事業を行っていく上の課題」というところで、原材料と仕入れ価格等の高騰が三つ目にあり、その下に、同じような話かと思うのですが、粗利の低下というものがあります。

原材料価格は、円安やウクライナ侵攻、燃油価格の高騰もあると思うのですけれども、1年前ぐらいからずっと価格が上がってきている状況だと思います。

他にも、人材確保に向けて人件費のコストアップもあると考えていまして、このままいくと、価格転嫁が非常に重要になってくるのかなと思っています。

原材料の価格そのものが上がるというトレンドがあると思っていますので、こういうところは今後重要になると思っています。最後のビジョン骨子の基本施策(案)のところにも、「粗利の低下」に対応していると思われる内容として、付加価値や生産性の向上がございました。今、我々もどう対応していくべきかと考えています。

また、我々は今年4月に北海道小規模企業振興条例を新たに改正しております。そのときの話として、我々も反省している点としてお伝えしておきたいのですが、「道庁は結構

いろいろと事業をやられているのですね」という話があり、また、「いい事業がいろいろあるのだけれども、実は全然伝わっていない部分があるのではないか」という話もありました。札幌市もいろいろな取組をされる中で、それが本当に必要な人に伝わるのが重要かと思っていますので、ぜひその辺を工夫されると良いのかなと思います。

○石嶋会長 政策のPRということですね。そこら辺について、何かコメントはございますか。

○事務局（守屋経済企画課長） 我々もいろいろな施策をしております、できるだけ使っていただかなければいけないので、通常の関係団体への通知や、ホームページ、場合によってはユーチューブも使ってやる場合もあるのですけれども、知らなかったということは絶対にありますので、これはさらに工夫して、努力していきます。

○石嶋会長 市長にT i k T o kでも使って宣伝してもらおうなどやるしかないと思っています。

次に、奥谷委員、お願いします。

○奥谷委員 いろいろ説明を伺って、当事者としてお話ししようと思います。昨日、娘家族がアメリカから1か月、家に来ております。1か月いる間に、子育てのこととか、女性の雇用のことやリモートワークについて、いろいろ見えてきました。例えば、女性雇用についてのM字カーブがあります。M字カーブについて、アメリカでは子どもがいて働くのが普通なのですが、休みを非常にフレキシブルに取れるのです。日本は保育園に補助金が出ていますが、向こうはほとんどなくて、近くの保育園に預けるとフルタイムで1か月に20万円、半日で10万円掛かります。

でも、リモートワークの仕事も選択できるので、多くを家でやっています。休みの1か月の間でも時間がある時は家で仕事ができる状態です。札幌でもリモートワークが進んできているという話を聞きますけれども、課題は事業者だけではなく庭内環境や家庭内事情にもあると思います。希望通りにリモートでやりたい仕事をやれるかといったら、そうはいかないと思います。

こちらにいる間に、午前中だけでも、あるいは1日でも、保育園に預けたいと思い、市内の20か所ぐらいの保育園に電話をかけたのですけれども、短期ではやっていないからと全部に断られました。やはり、保育園や幼稚園の在り方にもう少し自由度があってもいいのかなと思いました。

次回にはお試しで札幌に住んでみたいと言っています。札幌には水遊びができる公園が多くあったり、緑豊かな公園があったり、公園が非常に充実しているようなのです。私の世代が利用していたときと違って、公園がずいぶん利用しやすくなってきたと感じました。こういう環境だったら、子育て世代にとって札幌はすごく住みやすいとのこと。

それから、もう一つ探したのは空き家です。

地方には空き家バンクがありますが、札幌市には空き家バンクはないようです。短期で借りられるところを探したら、家の周りには庭も何もないところだったり、アパートだっ

たりしました。地方のような空き家バンクがあって、お試しで1、2か月住めて、実体験できるような制度があればいいと思います。お試しで住んでみるのは大事だと思いますし、そういうことできる制度があればいいと思います。

もう一つ気になるのは、7ページの右の緑のグラフですけれど、私どものような高齢者が増えて、支える勤労世代が減っていき、1対1で支えなければならなくなる。そうであれば、ここにある健康福祉・医療という項目ですけれども、バイオということばかりではなく、高齢者が寝たきりにならずに最期を迎えられるようする。寝たきりで長らく過ごし、亡くなる方が多く、健康寿命は短い。高齢者の健康寿命を伸ばすための産官学で連携した体制で、少しでも元気に生活できるようなモデルがあるといいと思います。

○事務局（守屋経済企画課長） まず、M字カーブですが、大分改善はされているのですが、まだ全国的にも低い水準というのが札幌市の課題です。戻った人も先ほど申し上げたように、フルタイムで働かない、パートタイム的な就業をしている女性の方が多いのです。

やはり、女性活躍としてフルタイムで働けるような環境ということで、これは経済部局だけでできるわけではないのですが、保育所や子育て支援をオール札幌市で少し充実させる必要があるかなと思います。この産業振興ビジョンがどこまでできるかは別物として、そう感じているところです。

お試し滞在については、先日、私も新聞で読んだ程度ですけれども、北海道の厚沢部町が3週間ぐらい首都圏から呼んできて、お試しでそのまちで過ごせるという取組があり、何百組と本州の人たちが来ているということで、ニーズはあるということですので、いい事例として研究させていただきたいと思っております。

健康寿命については、特に経済観光局が保健福祉局と一緒に取り組んでいるのは、働く世代の健康増進ということで、働いているときから元気で過ごし、そのまま年を取ると健康寿命が伸びることも考えられますので、働く世代がいかに健康にきちんと働いて、なお働けるかということはどういうふうに取り組んでいくか、ということで検討を進めております。

全てを産業振興ビジョンだけでは表せないのですけれども、札幌市全体として、頂いたご意見を各計画に生かしていきたいと考えております。

○事務局（早瀬経済戦略推進部長） 健康福祉・医療のところですが、現在やっていることとして、健康関連ビジネスを新規事業で取り組むとか、そうしたところに対する支援というのをさせていただいておまして、それはバイオ等ではない、もう少し身近な健康づくりというところをご提案いただく中身に入っているところです。

もう一つは、これから我々がやっていくべきことだろうと思うのですけれども、いわゆる高齢者になってできるだけ介護を予防していこうというときに、では、どうやったらできるのかというのは、日本全国を見ても、健康寿命が長い場所とあまり長くない場所とそれぞれあると思うのですが、まだまだこれから研究の余地も残されている部門かと思っ

います。

その中で、どうやったら健康寿命が伸びるのかをいろいろな施策を試しながら、その効果をきちんと測定していくということも極めて重要で、そのためには、今、ITやビッグデータが脚光を浴びていますが、そうしたものをしっかり使ってやっていけることも我々は考えなければいけないと思っていますところでは。

○石嶋会長 続いて小泉委員、お願いできますか。

○小泉委員 産業振興ビジョンの改定版を読み、私は40年ほど商店街の仕事をしているものですから、つつい商店街の話題になってしまうのですが、札幌市内に商店街が70件ほどあると思うのですが、事務局や人材を置いて活動できる商店街は本当に少ないのです。

その中で、先ほど道庁からもお話ありましたが、いろいろな形の支援事業のメニューを見せていただいても、それを理解できる商店街の人はかなり少ないということも言えますし、事務局がいる商店街にとって課題をある程度は整理できるのですが、商店街の理事長自体が事務をやっているのが大半な状況ですから、それに対する対応がなかなかできないのが現状です。

そういう意味で、いろいろな形でご相談したり、市商連に相談する方も多いのですが、書類を見た途端に、これは無理だなと。そういった状況の商店街の方々も多いのです。そういう意味で、もう少しこう何か簡略化して分かりやすく申請できるような形があればいいなど。

市の場合は、経済観光局にすぐ対応していただいても、できることはできるのですが、今回は道庁のものをやりましたら、本当に難しいのです。住民が頭を捻っても分からないという形もあるものですから、制度融資の仕様をもう少し分かりやすいような形で申請できれば大変ありがたいなと思っています。

札幌市内でだんだん商店街の数も少なくなっていくまで、地域に対する貢献度も少なくなっておりますけれども、中には元気でやっている商店もたくさんいらっしゃるのです。そういうことも考えていただければありがたいと思います。

また、今回のオリンピックのPR活動もそうですけれども、この前も市商連の総会にPRに来ていただきましたが、ほとんどが中心部を中心という形です。確かに、中心部は人が集まりますけれども、北区や東区などの周辺の区にも区民センターがありますので、そういうPR活動を、根を張って、草の根といいますか、そういう形でもう少し泥臭くやっていたいただければ、もっと効果があるのではないかと思います。

バッチをつけさせていただきましたけれども、オリンピックが決まって、地下鉄ができて、札幌が非常に発展しました。北24条もそうですけれども、そのような形で経済効果はかなりあると思いますので、中心部だけに頼らないで、周辺の地域にもPR活動を積極的にしていただければありがたいと思っています。

○石嶋会長 もし可能であれば、お願いします。

○事務局（久道経営支援・雇用労働担当部長） できるだけ簡単に申請等をといるところは、私たちもいろいろな支援策について、できるだけ簡単に理解しやすい形でご提供するように心がけてまいりたいと思います。

また、私どもの事業の中で、商店街の中の人材育成に関する支援をさせていただいております。できれば、各商店街の中で、まちづくりなど、ノウハウが必要なものもいろいろ出てくると思いますが、こうしたノウハウをお持ちの人材が各地域の中で育てていただいたり、そういう方に参加していただくような環境をつくっていかたいなと思っております。今後の次期産業振興ビジョンの中でも、そういったところを心がけてまいりたいと思っております。

○石嶋会長 では、続きまして、越田委員、お願いできますか。

○越田委員 北洋銀行の越田でございます。

私からは、1点、SDGsのことについて教えてもらいたいと思いました。

アンケートで、知っているけれども、何も検討していない以下を全部足すと77%ぐらいあるということで、まだまだ浸透していないという感があります。

そういう中で、今後、SDGsを促進していくということで、それはすごく素晴らしいことだと思うのですが、では、具体的にどういう形で推進していくものなのか、あとは、推進していくものをどうやって札幌市外にPR、IRをしていって、ひいてはオリンピックを誘致していくかということにつながると思いますので、そこら辺についてどうイメージしているのかをお聞かせいただければ非常にありがたいと思います。

○事務局（守屋経済企画課長） SDGsについては、もちろん企業にかかわらず、全市民、全団体が取り組むもので、それについては産業振興ビジョンでもいろいろやっているのですが、経済観光局として事業者がいかに取り組みやすいきっかけをつくるかということを念頭に進めております。これは、まだ確定ではないですが、我々はSDGsに取り組んでいるということを企業側が対外的にアピールできるような札幌市としての制度を、具体的にはSDGs認証や登録などいろいろあると思うので、それが何になるかは検討中ですが、企業が取り組むきっかけづくりになると思います。

やはり、SDGsとは別に、これに取り組まない取引先と取引ができないという状況も起きてくると思うのですが、やはり、中小企業が取り組む上で何かしらのインセンティブがあったほうが取り組みやすくなると思いますので、それについて、市の制度の中でどのように構築できるかということはあるのですが、企業側にも何かしらのインセンティブを与えるようなことができないのか、これはまだ施策まで落ちていないのですが、検討の俎上に上げているところでございます。

また、それいかに対外的に取り組んでいくかというところは、逆に行政の発信力かと思っております。札幌市ではこういう企業がSDGsに取り組んでいますということは積極的に情報発信していくことが重要かと思っておりますので、自治体としてそういうことをやっていきたいと考えているところでございます。

○事務局（早瀬経済戦略推進部長） 補足です。

SDGsは広いので、いろいろな部分があると思いますが、環境分野に関しましては、例えば、再生可能エネルギー等をできるだけ使うような場所、あるいは、これから札幌市はリニューアルというか、都心のビルがどんどん建て替わっていきますけれども、そうしたところにそうした機能を含めていくということを、逆に企業誘致の場面で我々は積極的にアピールしていきたいと思っております。

昨今、日本全国でESG投資や環境に関する意識は、企業面でも相当高いと思っておりますので、我々としてもそうした機会を捉えていきたいと考えております。

○石嶋会長 ゼロカーボンの辺りも関係しているかと思えます。

一方では、人材の育成も中に入ってきていますので、そういう意味では、非常に広い概念ですから、どこにポイントを絞って説明していくか、非常に大変なテーマかと思えます。

では、続きまして、菅原委員、お願いいたします。

○菅原委員 総じて整理されていると思えますので、おおむねいいのではないかと思います。

その上で、あえて三つほど思うところがあります。

先ほど災害の話が出ていましたけれども、一つは地震が間近にという話が出ていますし、今回のコロナもそうですけれども、やはり中小企業においてBCPをしっかりと備えておくことは非常に重要だと思います。

札幌だけではなくて、取引先とのサプライチェーンの関係も含めて、道内、もっと言うと全国ということになりますけれども、やはりBCPを備えておくことは重要です。地震や、最近は大雨がありますし、感染症もそうですし、鳥インフルなど、いろいろなことがありますので、そこについて、ビジョンの中でどう表現するかは別ですけれども、メッセージ性を強めていただければありがたいというのが1点です。

二つ目は、先ほど西山委員からお話がありましたけれども、賃上げをしていく、所得を上げていくことは札幌市の大きな命題だと思います。そういう意味では、中小企業の価格転嫁が今はなかなか難しいです。物価高、それも燃料も制度を使って下げようとしていますが、様々な価格転嫁をきちんとしていかないと、中小企業の賃上げの原資が生み出せなくなります。いろいろな法律もあるので、それはそれでしっかりと見ていくことになると思うのですが、取引適正化という機運を盛り上げていくというか、そういう視点を強調していただけるとありがたいと思います。

最後の三つ目は、北海道は休廃業率が非常に高いのはご承知だと思いますけれども、中小企業は後継者がいなくてやめてしまう方々が非常にたくさんいらっしゃいまして、そのうちの約6割が黒字なのです。黒字企業をたたむということは、いろいろな要因があるのですが、後継者がいないというデータがあります。

北海道は後継者の不在率が全国で1位と、トップクラスになっています。おまけに、少子高齢化で人口減少率も非常に高いということで、ますます金を稼いでくれる人たちが減

ってしまうことになるのです。

ですから、私どもは札幌市と一緒にスタートアップを一生懸命やっていますし、自治体でも企業誘致をやっています。そういう両輪というか、事業承継、後継ぎ支援など、今ある企業の新しい事業展開、もしくは生産性向上に注目いただきたいのです。これもまた事業承継、後継ぎのメッセージ性をぜひ強めて、プレーヤーの維持増加をぜひ目指していきたいと思っております。

○事務局（守屋経済企画課長） まず、最初の中小企業のBCPですが、確かに大企業ですと本社を担ってもらってという大胆なことになるのですけれども、例えば、中小企業ですと、例えば、水害で考えるとサーバーを置いている場所によって、ちょっとしたことで取り組めることがありますので、中小企業の皆さんに、BCPでどういうことが取り組めますよということができるだけ分かりやすく、今もセミナー等でやっているのですけれども、地道に伝えていきたいと考えております。

最後の事業承継については、私の説明では不足していたのですけれども、13ページで、経営者の高齢化等による後継者不足が主要な課題、必要な取組と挙げておりまして、今、現段階でも事業承継をしているのですけれども、今、札幌市でやっている事業がうまくいっているかということ、そうではない一面もあります。委員がおっしゃったように、黒字企業で誰か継ぎませんかということをやうまくマッチングできたり、M&Aも含めて推進できるようなことを、これは我々だけではできない面もあるので、金融機関の方と組んだりしながら、より施策レベルに具体的に落とし込みたいと考えております。

○事務局（久道経済支援・雇用労働担当部長） 今の説明の中で、金融機関との連携というお話がありましたけれども、まさに北洋銀行、北海道銀行と連携協定を結ばせていただきまして、やはり、事業承継をする上で、取引先と最前線でお話しされていらっしゃる場所ですので、その中で事業承継の案件がありましたら、私どもにご紹介いただくという関係性をつくらせていただいております。こういったところも今後ますます膨らませていくながら、事業承継に取り組んでいきたいと思っております。

○石嶋会長 今のことでざっとつながったのですが、事業承継する方が道内には限らないので、全国から人材を確保したいとなると、先ほど奥谷委員が言ったお試しで札幌に来てみる、あるいはリモートを増やす、来た人たちが地域になじめるためには町内会や商店街でコミュニティーがつくられていなければいけないなど、わっと広がっていくのだなという感じを受けました。そこら辺のポイントがどこにあるかをしっかり考えていければと思います。

続きまして、鈴木委員、お願いできますか。

○鈴木委員 私からは2点お話しさせていただきます。

まず、第2次のビジョン策定に向けた企業アンケート結果と、ヒアリング概要の総括のところ、まさに企業さんの課題がここで整理されています。この課題を拝見すると、やはり人材不足であったり、デジタル人材、いわゆる専門人材がなかなかいない、確保でき



ていないというところであったり、行政に対しては低利融資制度とか人材確保の支援をお求めになっていたり、SDGs、脱炭素に関して言うと、どのような取組をすればいいか理解でき、メリットを感じられる仕組みが重要と書いてあるのですけれども、どういうふうに進めていけばいいのかなと考えている企業が多いのかなと、こういったところが課題なのだろうと思いました。

そういった課題がこちらに示されていて、その課題がビジョン体系の施策展開の方向性の横断的戦略の13ページの資料に、まさに基本施策（案）というところに、課題に基づいた施策がこちらにきちんと落とし込まれているので、ビジョンの方向性としては適切になっているのだろうと思います。

その中で、この施策が実際に支援として企業に提供するときに、いろいろ分からないことがあれば、コーディネーターを派遣するだとか、実際にそれを投資に回す場合には、補助金だったり、助成金だったり、そういった策が必要になってくると思います。ですので、施策に当たっては、そういったものときちんと連動される形で作り込む必要があるのだろうと思いました。これが1点目です。

2点目に関して言えば、今度は重点分野のほうで、観光のところの基本施策で、札幌らしい観光コンテンツの充実と書かれています。まさに、札幌はもともと観光が強いところですから、さらに観光に対して札幌らしいもう一つ、二つの魅力をつくっていくことだと思います。これに関しては、ぜひ進めていていただきたいと思いますし、私どももいろいろと情報交換させてもらいながら、うまくいくような話になればいいなと思っております。

さらに、食に関しても、食のまちとしての都市ブランドの強化と誘客促進と書かれていて、食も、もともと北海道かつ札幌ですから、やはり強いです。でも、さらにもう一つブランド化という話になって、食に関しては、気候変動に伴って取れる農産物も変化してきていますし、さらに水産物も魚種の変化で変わってきています。

もちろん札幌ですから、そういった北海道で獲れたものが一番消費されるところになるので、そういった食の変化を捉えてブランド化していくというのも一つの方法なのかと思っています。

私どもは、実は観光のほうにも力を入れて推進している関係もありますので、そういったところでも引き続き情報交換をさせてもらいながら進めていければいいと思っております。

以上の2点が私の意見でございました。

○事務局（坂井産業振興部長） 今お話のあった食についてお答えさせていただければと思います。

食については、まさにブランドをどう高めていくかということと、札幌だけではなかなか語れないところがあります。これも北海道と連携してやらせていただいていますけれども、北海道全体の食の消費地としての札幌、それから、先ほど西山委員からありました輸出ということも出てまいります。こういったことをトータルでやっていかなければいけな

いということで、これは札幌市だけで解決できる課題ではないと思っていますので、今日ご参加いただいています企業の皆さんはもちろんですが、金融機関の皆様や経産局や道庁の皆様とも連携しながらやっていければと思っています。

もう1点は、先ほど、補助金の関係でコーディネーターという話がありましたけれども、札幌市は、さっぽろ産業振興財団がございまして、中小企業支援センターが経済センタービルにございます。ここでもいろいろな補助金の説明をしておりますし、食に関しては、今後、コーディネーターを実際に企業に派遣して、なかなか申請が分からないとか、どういうふうにやっていいか分からないということは結構あると思いますので、そういうサポートもやっていこうと考えております。

このビジョンは骨子だけですので、まだ細かいことは書いていませんけれども、今後、肉づけをさせていただければと思っています。

○事務局（石井観光・MICE推進部長） まさに札幌らしい観光コンテンツの充実、魅力づくりというのは、私たちも、産業振興ビジョンと同時に、観光まちづくりプランというものの策定を並行して進めているところです。その中でも、観光コンテンツの充実というのはまさにテーマになってきていまして、やはり札幌らしい観光コンテンツ、要するに札幌に来ないと体験できないことということで、リピーターを増やしていくことを考えていかなければいけないということがまず一つございます。

背景として、これから人口減少を迎えていく中で、同じ方に何度も訪れていただけるような魅力的なコンテンツをつくっていくということと併せて、そのコンテンツ自体にいかにか付加価値をつけていけるかということで、観光というのは、観光消費額を増やしていくことと併せて、域内消費をどれだけ拡大していくかということが非常に重要な観点にこれからなるかと思っていますので、そういう形で観光コンテンツの磨き上げをしていきたいと思っています。

そういう意味では、最近、観光の世界で結構話題になっているのは、アドベンチャートラベルという新しい旅行形態です。これは欧米豪の富裕層に訴求できるコンテンツなのですが、アドベンチャートラベルというと、激しい山登りとかトレッキングとかラフティングというイメージを持たれるのですが、実はそうではなくて、そこならではの体験をすることによって自分自身が変わることができる旅行形態ということで、そのときに非常に重要なのが、その旅行に伴走するガイドの存在です。そのガイドをどのように質の高い、当然、言語面でも対応できるようなガイドをどう育成していくかということも非常に重要になってくるということで、人材育成と札幌の資源を再発見していくという取組を併せてやっていかなければいけないと考えています。

今年度からの新たな試みとして、札幌市内の観光事業者の方々にお声かけをしまして、札幌市内を7つのエリアに分けて、それぞれの場所で新たな魅力発見をしましょうということで、ワークショップ形式の取組を進めています。

決して座学だけではなくて、フィールドワークで外に出て、実際にこのエリアにはこう

いう魅力があるねということも皆さんで共有しながら、宿泊事業者の方もいれば、旅行事業者の方もいたり、最終的にはそういうものをコンテンツ化、商品化していくことで、なおかつ、そういうところで生み出されたものを、参加の事業者だけではなくて、オープンデータとして観光に携わる皆さんにご紹介していくことで広くご利用いただくようなプラットフォームを今年立ち上げましたので、これを毎年ブラッシュアップしていきたいと考えているところでございます。

○石嶋会長 ありがとうございます。

続きまして、田中委員からお願いします。

○田中委員 たくさん話したいことがあるのですけれども、少し割愛します。

最初のほうは、資料4の11ページに第2次札幌市産業振興ビジョンのスローガンが出ていますね。1、2、3と三つ出ていますけれども、これについて感想を述べたいと思います。

第1案の「SAPPORO NEXT 100 YEARS CHALLENGE」というのは、100年に向けて頑張ると言うのですけれども、これはすごく大きなスローガンで、大きく出たなという感じがしました。2番目の「持続可能な経済化基盤と新たな活力へと繋ぐ～」は、今の時代に合っているかなと思いました。それから、第3案の「未来を創ろう～」は、ちょっと漠然としているかなと思いましたので、2番がいいのかなと感じた次第です。これは私の意見ですが、参考にさせていただきたいと思います。

前に戻りまして、アンケートなのですけれども、アンケートを1万社に出して3,000社から回答が来たということです。アンケートを返してくれるところは、割とちゃんとした前向きな余裕のある企業が多いと思われませんが、それにもかかわらず、私はこれを見て非常にがっかりしたのですけれども、新分野・新業務への取組状況で予定はないが53%もあるのです。えっ、これは困ったなと思いました。中小企業は新分野や新業務に絶えず挑戦してやっていかないと生きていけないはずなのに、こんなものでいいのかなと思いました。

それから、人材の活用のところでも、どのような人材の活用を広げていきたいと考えているでしょうかといたら、特に考えていないが56.6%もあったのを見て、いや、これは困ったなと思った次第です。

これは実際にあった話で、デジタル化の問題ですが、さっぽろ産業振興財団と社団法人北海道IT推進協会がデジタル化の取組ということで大きなセミナーをやって、DX学校という提案をしてくれたのです。企業が300社、400社集まってそれを聞いて、この学校に入らないかという話があって、聞いたら、大体3時間の20コマぐらいを受けて4万数千円で、テストもあって資格も取れるというので、うちの会社から1人出したのですけれども、全部でたった十数名しか受けていなかったそうです。ちょっと残念に思いました。600人ぐらい聞いていたので、私は100人とか、そのぐらいの人が受けるのかと思ったのですが、札幌市のさっぽろ産業振興財団でも援助をしているのだと思うので、ち

よっとがっくりした次第です。

アンケートに関しては、SDGs のこともありますが、全体に大変だなと思いました。先ほどから話が出ている事業承継の問題です。廃業が非常に多くて、後を受け継ぐ人が本当に少ないです。特に中小零細企業においては、オーナーの力量に係るウエイトが大きいですから、後継者問題というのはなかなか大変でございます。

私どもが所属している中小企業家同友会は、札幌市の中で大体2,000社ぐらい入っています、全道で5,700社かな、全国で四万数千社が入っている会なのですが、ここでも後継者問題は非常に大事な問題だということで、今年の4月から、つなぐ会というものをつくって、1番目は親族承継をどうやっていったらいいか、2番目は役員承継で、社員からどう後継者を育てていったらいいか、3番目はM&Aで、これはなかなか難しい問題がたくさんあるのですけれども、それをどう進めていったらいいかということ、今、同友会の中でセミナーを繰り返してやったり、相談に乗ってあげたりということをやっている最中で、スタートしたところです。これは大きな問題でございますので、この第2次の案にもぜひしっかりと入れていただきたいと思いました。

それから、創業支援も大事です。廃業があったら困るのですけれども、創業もどんどん起きてこない、経済が全体に活性化していきません。でも、創業というのは、実際にうちの娘のところもそうだったので、新しく始めるとなると、実績がないから、前例がないから、金融会社もなかなか判断しづらい部分があるのです。応援していいのか、お金を貸していいのか、そういうときに札幌市辺りがしっかりと後押しをしていただければと思います。もっと創業者が増えてくると経済が活発化してくるし、従来からやっているともしっかりやらなければいけないということにもなってきますので、大事なことだなと思いました。

また、UIターンも人材確保ということでは大事なことだと思います。

そこで、二つあるのですけれども、一つは、資料4の7ページを見ていただいて、左下にグリーンの表がありまして、札幌が一番魅力度があるのです。情報接触度も2番目です。ところが、居留意欲度が3番目になっています。これでも高いほうでしょうけれども、観光意欲度は1番です、それから、産品、食品関係の魅力でも1番です。

住宅のところはちょっと低いのです。これでも高いでしょうけれども、この最大の原因は、本州から来た友人や金融機関の転勤で来た人の話などを聞いていると、冬の除雪なのです。今年は圧倒的に大変でしたね。これは札幌市内の除雪だけではなくて、JRの関係もありますけれども、交通機関の問題もありますし、オリパラの問題もありますが、190万人都市でこれだけ雪が降るまちは札幌のほかにはないということですから、前代未聞の大変なことだと思うのですけれども、除雪をしっかりやると札幌の居住度が上がって、多くの人材がここに定着するということにもつながってくると思います。

もう一つは、水害の問題で本州方面は大変な状況になっていますけれども、これだけ温暖化が進むと、たくさん水蒸気で水が空に上がるわけですから、たくさん上がったらく

さん落ちてくるわけです。そして、豊平川は大丈夫かなと思っているのです。札幌のすぐ側を流れていますから、そのことを心配しております。その辺も万全にさせていただきたいと思います。

○石嶋会長 ありがとうございます。

○事務局（守屋経済企画課長） 雪については、田中委員の分析どおりかと思えます。これも新聞等で皆さまご覧になっているかとおもいますが、検討中段階ではございますが、フェーズに分けて除雪するという新たな取組を進めまして、去年のような雪になっても少ない影響しかないように、除雪に対する検討を札幌市として進めております。

水害についても、起きないということは絶対になくて、ハザードマップをつくってございまして、ここは浸水するよということを公式にも発表しているものがありますので、そういうものももっと皆さんに知らせて、万が一のときの対応が取れるように住民意識を高めていく必要があるかと考えております。

○石嶋会長 ありがとうございます。

続きまして、土井委員からお願いいたします。

○土井委員 13ページの最後にあった人口1人当たりの市内総生産を数値目標として設定というのは、素晴らしい話だと思って、これはいいなと思っていました。

一方で、働く人口がどんどん減ってきて、退職した高齢者とか子どもたちの率がどんどん高まっていく中で、1人当たりを上げていくのは結構大変だなというのがあります。人口ボーナス期を迎えた日本、札幌がこれを実現するためには、先ほど西山委員がおっしゃっていたように、人口ボーナスの地域にどんどん輸出をしていって稼いでいくということが大事なのと、その地域から観光で来てもらって稼ぐというのが札幌の一つの魅力であり、重要なところなので、それが反映されてよかったと思っています。

ただ、もう一個欲しいと思うのが知財の活用です。特許とか意匠権とか、その辺を充実させて、世界中から札幌にお金が返ってくるという環境をつくるのが重要で、そのために産学連携だと思うのです。

知財を取ろうと思うと、メーカーであれば、試作品をつくって、そこで性能を見てからでないと出せないし、バイオであれば、コロナのように、ある程度ウイルスが使えるようなところで評価してデータを取らないと特許を出せないのです。今、民間でそういうものをつくる環境が札幌はほかの地域に比べて不利かなというところがあります。

ただ、そこは札幌でつくらなくても、そういうところが得意な地域とうまく連携して知財を取れば、その知財は札幌に所属するわけですから、そういった戦略を立てていけばいいのではないかなと思いました。

それから、GAPファンドというものがあって、最初に大学とか高専にお金を少額だけ入れて、できれば知財取得くらいまでもって行って、その後に民間のお金をどんどん持ってくるというのは大事だと思います。今、地方でいけば、沖縄と神戸が導入していて、私は両方とも審査員をやっているのですから内容を知っているのですけれども、特に沖縄がすごい

と思ったのは、今年、沖縄だけで80件以上の応募が上がってきたのですよ。そのうちの20件を選んだのですが、その応募の内容が、こういう研究をやってこの研究にこのお金を入れて進めていけばこういう知財を取りますという計画書でした。本当にその知財を取れるかというところで審査して選んでいて、数年やっているのですが、もう既に商品になっています。商品化は東京や九州の企業がやっているけれども、沖縄にお金が返ってきていて、沖縄の中小企業にもお金が落ちているみたいな案件が出てきています。

ですから、そういったGAPファンドみたいなもので世界から北海道にお金が入ってくれば、人口1人当たりの総生産が上がってくるかなというところを期待したいと思っています。

おととい、高市早苗さんがセミナーの講師で来てくれたので、そのお話を聞いていて、多分、政調会長のときの自民党の政策だと思うのですけれども、かなり札幌でできそうなことを話してくれていたなということがあります。それから、ワンハンドレッドデイズと言って、パンデミックが起こったときに100日以内にどういう対策を取るかというワーキンググループが立ち上がって、実際に広島サミットで発表するのですけれども、ここも北海道で北大とか北海道内の企業ができるような内容が結構入っています。

そういったチャンスがあるので、もう少し具体的に取り組むような仕組みがあればなどすごく思っているところです。バイオ、IT、その他でいけば、知財で稼ぐというのが一つあるかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

○石嶋会長 ありがとうございます。

○事務局（早瀬経済戦略推進部長） ありがとうございます。

今、知財のお話がありまして、我々もまだまだそこは、特に地域に専門家の方がいらっしやるにしても、例えばバイオ分野の方がなかなかいらっしやらないこともあると伺っておりまして、では、どう連携するのか、そこはずっと宿題だと思っております。

今、例えばベンチャーキャピタルの方といろいろ連携をさせていただいたりという流れの中で知財についてもということも恐らく出てくると思いますし、いろいろな連携先をしっかりと考えていきたいと思っています。

また、GAPファンドについては、北大でも取組を進めていただいております、たしか昨年度からそうしたことがスタートはしていたかと記憶しています。肝としては、やはり知財に結びつくとか、実際に物になるとかというところで、恐らくそこが足りないところかなと思います。一方で、時間もかかる世界ではあると思いますので、時間がかかるからといってやめるということではなくて、しっかりと形になるまで我々としては追いかけていきたいと思っています。

今後ともよろしく願ひます。

○石嶋会長 ありがとうございます。

では、西山委員、願ひいたします。

○西山委員 ただいま第2次札幌市産業振興ビジョンの骨子の話を承ったところでございま

す。

本当にすばらしくまとめられておまして、まず、札幌市の魅力は何だろうときちんと分析されて、その札幌の魅力を大事に資源として活用して経済を牽引していこうということで、私もなるほどなと納得をしながら聞かせていただきました。

その中で、石井部長からも札幌市の魅力は何だろうということで、観光事業者の方を軸にして魅力を発見して整理していこうということで、まさに札幌市に観光に来られた方とよく接していますので、地元にいると札幌市の魅力がよく分からないのですね。外からの人はよく分かりますので、そんな声も聞きながらということで、第2次のビジョンもすばらしい内容に仕上がるのかなと思っていますところでございます。

それに加えて、若いところで言うと、今日は先生もおられますけれども、札幌市も大学に留学生が結構多いのですね。海外からの留学生は、ほとんどの方が札幌に初めて来る方だと思います。初めて来て、いろいろな意味でびっくりして、驚きだとか感動だとか、いろいろなものがあると思いますので、その辺なんかもヒアリングをすると札幌市の魅力がまた海外の人の目線ということで発見できるのかなと思っています。

コロナ前は、本当にお客様が利尻島から石垣島までおりますので、全国各地いろいろ回っております。また、私は、海外もコロナ前は毎月出ていました。そこから逆に札幌市の魅力を比較しながらいつも見させてもらっているのですけれども、札幌市のいいところといますと、やっぱり大通公園の活用はすばらしいですね。こんなに街中の大きな公園をこれだけ活用しているまちは全国的にもないと思います。札幌市のすばらしい取組だと思います。

逆に、札幌市で不足しているなと思うのは、街中のサインボードです。東京は意外とごちゃごちゃしているのですけれども、サインボードが多いのですね。大阪は少ないんですよ。どこに何があるか分からない、そんなところもあったりしていますけれども、もっともっと国内のほかのまちなちの事例も情報を集めたり、それから、海外の事例も面白いかと思えます。

私は、3年前にスイスのローザンヌ、ジュネーブにうちのお客さんもおりますので、行ってきました。10年前に行ったときには、ただビジネスホテルに泊まって、それだけだったのですけれども、3年前に行ったときに、ジュネーブにもローザンヌにも泊まりました。観光立国スイスでございますから、びっくりしたのは、チェックインしたときにまちなちの観光ガイドをくれるのですね。マップをくれるのです。マップと同時に1日のフリー乗車券をくれました、3年前に。10年はなかったです。ということは、まさにヨーロッパはゾーン制になっていますので、まちなちの電車でもなかなか乗りにくいのですね。歩いてしまったり、タクシーを使ったりするのですけれども、1日フリー乗車券がありますと、バスもトラム（路面電車）も、あそこはジュネーブ、ローザンヌ、レマン湖が近くありますので、水上バスも全部乗れるのですね。

札幌市もすばらしい交通機関、交通網を思っていると思いますので、そこともうまく連

携しながら、まず、人に動いてもらわないとまちが活性化しないので、そんなことも考えながら、国内外いろいろな事例が多くあろうかと思っておりますので、もう少し情報を集めていただければ、もっともっと厚みのあるものになってくるなと思いつつながら今日の話をお聞かせしていただきました。

今日はどうもありがとうございます。

○事務局（守屋経済企画課長） ありがとうございます。

確かに、我々はまだ経営者とか学識者にしか聞いていなくて、おっしゃっているように、まずは身近では留学生の意見を聞くというのも大変ごもっともなご意見ですし、様々な意見を聞いて事業をつくっていくのは大切だと思えました。引き続き、まだ機会がありますので、今のご意見を踏まえてきちんと様々な意見を聞いていきたいと思っております。

○事務局（石井観光・MICE推進部長） 今、何点か示唆に富んだご意見をいただいたのですけれども、大通公園の活用については、私たちも、今年はライラックまつりから始まり、この後に雪まつり等々、1年中ほぼ大規模イベントをやらせていただいております。

これは本当に札幌の大事な資源だと思っておりますし、観光の需要を生み出すという意味でも非常に重要な機能ですので、これをしっかり持続可能な形で運営していけるように考えていきたいと思っております。

サインボードについては、実は民間企業から様々な提案をいただいております。今は、広告も取りながら、その維持管理については自分のところでやるので設置をさせてほしいという事業スキームがあって、それを提案いただいているのです。デザイン的にも結構優れたものでいいなと思っておりますが、今、ちょうど札幌の再開発がどんどん進んで、これからまちの形が少し変わってくる時期でもあるので、その辺の姿が見えてから、どこにどういうサインを設置していくのがいいかということをしっかり基礎調査をした上で導入していきたいなということで、今、事業者とも話をしているところでございます。数年後はもう少しよくなっていると思っております。

また、ローザンヌのホテルで観光ガイドと1日乗車券をお渡しするという事で、私たちも、札幌は本当に土地が広くて観光名所もいろいろなところにあるものですから、2次交通対策は本当に頭の痛いところなのです。どうしたものかと考えているのですけれども、一方で、一番大事にしなければいけないのは、環境に負荷をかけないという意味でも、公共交通機関をしっかりと使っていただくということなのだと思います。そのときに、海外の方は、切符を買うことなどにいろいろ障害がありますので、今、意外とDXとかそういうところに走りがちですけれども、こういうアナログな1日乗車券をお渡しするという手法もあるのだなということで、新たな気づきをいただきましたので、今後の事業の参考にさせていただければと思います。

ありがとうございます。

○石嶋会長 では、本間委員、お願いいたします。

○本間委員 私からは、1点、人材不足というところです。



アンケートの中で人手不足が40%と最も多くなっています。先ほど株式会社和光の田中会長からもご指摘がありましたが、次のページで多様な人材の活躍に向けた取組で、特に考えていないが56.6%というのは非常に問題だなと感じています。

一方で、望む支援ですね。3ページの④番の事業活動を行う上で、行政に望む支援としては人材確保支援ということで、22.3%が出ているのですね。

札幌市さんにおかれましても、人材確保支援として、いろいろな支援をしていただいているなどこちらの資料を見ても分かるのですけれども、恐らくこれが効いていないぐらい人材不足はもっと深刻に進んでいるだろうと感じています。

根本的に何をしなければいけないのかなというのは非常に難しいと思っていますのですけれども、やはりこの特に何も考えていないというところをどうしていくかということを実際に考えないと、本当に人材不足はますます深刻になる一方だなと思っています。

これから2025年から2030年にかけては、団塊の世代が75歳に到達する、要介護の方が増えていく中で、介護との両立、今、育児支援はかなり充実してきていますけれども、育児との両立以上に介護との両立が仕事で果たしてできるかどうかというところですね。

一方で、テレワークに関しても、緊急事態宣言が明けると同時にテレワークは縮小している企業が非常に多いとも聞いています。これからは感染対策としてのテレワークというよりも、両立支援としてのテレワークというメッセージを出していかなければ、基本的に、いや、うちの会社ではもうテレワークはできないと言われてしまうとそれで終わりなのですけれども、それが人材不足につながっているというところがまだまだご認識されていない経営者の方が非常に多いと思っています。

10月から男性の出生時育児休業も始まりますけれども、そこに対するハレーションも大きくて、男性がそんなに何か月も何年も育児休業を取るようになったら会社は潰れるよというお叱りを受けることも多いのですけれども、一方では、人が来なくて困っているのだよねと、それはそういう環境だから人が来ないのだということをおもく説明できないのですけれども、やはり弊社の顧問先でも二極化しておりまして、両立ができるような職場の環境整備をしている企業は黙っていても人が来ます。そうではない企業は、ますます多分人材不足に悩むことに今後なるかなというふうに思っているのです、その経営層の意識改革をどうしていったらいいのかなというのは私自身も非常に悩ましいところなのですが、その辺も重点事項というか、真剣に考えていかないとまずいなと非常に感じているところです。

○事務局（久道経営支援・雇用労働担当部長） 貴重なご意見をありがとうございました。

確かに、特に考えていないという層の方にどういうふうにアプローチしていくのかというのは非常に重要な観点だと思います。

私どもの中でテレワークの導入補助金を行っておりまして、もともと感染症対策で一気に普及したものなのですけれども、その中でも企業様から、感染症対策で入れたのだけ

ども、新規雇用につながったというようなご意見もたくさんいただいております、もともと会社の中で補助を使って導入するのがきっかけで意識が変わったところもございます。

そういうところも感じられましたので、何が正解かというのは今後いろいろ検討しなくては行けませんけれども、次のビジョンの中ではこういったところも工夫してまいりたいと思っています。

○石嶋会長 ありがとうございます。

では、伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 この札幌市の産業振興ビジョンに関わらせていただきましたことに感謝を申し上げます。これからの10年、私たちにかかっているのだなど、そういった想いでございます。

その中で1点ですけれども、環境、SDGs、ゼロカーボンの具体例がちょっとどうかと思う点がございまして、私の本業の住宅の設計のお話なのですけれども、資料1で省エネリフォームをしますと補助金をいただけるのですけれども、2025年から、新築で建てる場合に、省エネ、創エネ、木の活用というこの三つがついてまいります。これは国交省と経産省と内閣府から同時に出しております。そうなりますと、今、ウッドショックもございまして、これから新築を建てるということはすごくハードルが高くなります。

省エネは当たり前ですけれども、創エネということで、ソーラーシステムですとか蓄電池を取り入れなければなりませんよということの最終目標が2050年の前の2030年にはクリアしなければならないので、これから新築を促進するためにも、何か札幌市から補助金が出るというものが欲しいと思います。

このビジョンは今後10年活用されるものですから、その辺の具体例でゼロカーボンについて、市民に対してはこういったことがあるよ、市としてはこういうことがあるよと、例えば、ビルに対しても、今は新築ビルが建っていますけれども、隈研吾さんの影響でこれだけ木が使われて、日本中の木を使っているということで、道産材もすごく今は人気になって、逆に輸入材もウッドショックで値段が上がっているけれども、道産材の値段も上がっております。この辺を一般市民が使うとなるといろいろ生じる問題もあると思います。合板材ではなく、本当の木を使わなければならないということになりますので、その辺も踏まえたものを一部でも入れていただければと思います。

よろしく願いいたします。

○事務局（守屋経済企画課長） まず、SDGsについては、別に省エネばかりではなくて、17の目標があって、それに向かってどの費用が何の取組かというのを分かりやすくこちらも伝えていこうというので、必ず省エネばかりではないですよと、ジェンダーであったり人種差別の解消なりも大事ですので、その辺も含めて普及させていきたいと思っております。

市民向けの建設補助となると、全庁的には、例えば環境に優しい自動車があるものから、その辺とも、まずビジョンにどこまで反映できるかは別としましても、市民にもそ

ういう省エネに取り組んでいけるようなものを全庁的にメニューを拾って、できるだけ紹介していきたいと思っております。

○石嶋会長 ありがとうございます。

実は、私は大変重要なところ忘れておりまして、11ページのところに今回のビジョンの骨子の基本理念を示すスローガンが三つ挙がっておりまして、先ほど田中委員からはご意見をいただいたのですが、ここを三つの案から一つに決めておきたいのです。完全にこれだというわけではなくて、それをベースにブラッシュアップするというふうにお考えいただいて、ご意見を伺うのを忘れておりました。

この3案のどの案がいいか、皆さんから挙手をいただきたいと思っているのですが、挙手制でいいか、それとも意見をお一人ずつ伺うほうがいいのか、あまり今からお話しいただく時間的に難しいので、特にご意見のある方は挙手をいただきたいと思います。

田中委員のこの案の三つについてのご意見をまとめますと、第1案は大げさ過ぎるということで、第3案はポイントがよく分からない、ちょうどいい感じで意図も伝わるだろうというのが第2案で、第2案がグッドではないかというご意見だったかと思いますが、ほかにご意見はありませんか。

「SAPPORO NEXT 100 YEARS CHALLENGE」、「Next City Sapporo」、「Sustainable×Growth Sapporo Economy」と三つ英語が並んでおりますが、分かりやすいのは第2案という感じかなと思うのですが。

○小泉委員 第2案でいいと思います。

○石嶋会長 それでは、第2案を骨子として、これを素案といたしまして、またブラッシュアップしていくというふうにしていきたいと思っております。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石嶋会長 終了時間を過ぎておりますが、第2次札幌市産業振興ビジョン骨子案につきましては、本日審議した内容を基に素案をつくっていくということといたしまして、基本理念のスローガンは第2案を採択したいと思っております。

皆様、長時間、ありがとうございました。

予定されていた議事は以上ですが、ほかに皆様から何かございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○石嶋会長 ないようであれば、本日の審議会につきましては以上とさせていただきますと思っております。

進行を事務局にお返ししたいと思います。

#### 4. 閉 会

○事務局（守屋経済企画課長） ありがとうございました。

閉会に当たりまして、産業振興部長の坂井からご挨拶させていただきます。

○事務局（坂井産業振興部長） 委員の皆様、今日は長時間にわたりまして貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

皆様に今日いただいた意見、中小企業振興策はもちろんですが、次期産業振興ビジョン「Next City Sapporo」の実現に向けて取り入れてまいりたいと考えております。

また、今日は時間がなかったので、なかなか言い切れなかったところですか、これをおっしゃればよかったなということがもしあれば、直接会ったときでもメールでも電話でも結構ですので、ここにいる職員にぜひ言っていただければと思います。

最後になりますが、本日は本当にありがとうございました。

以 上